



のびのび いきいき 生涯学習

生涯学習グループの紹介



現在、都留市内において各種団体に所属し、活動している学習グループや自主的に学習しているグループを紹介します。

絵画教室10年の歩み『つる美術』

平成元年、中央公民館主催の生涯学習振興事業の「絵画教室」の参加者を基盤に「つる美術」(昭和57年改称)は生涯学習を目的として、二十数名で自主教室を起し、今までの枠から一歩前進しました。

A・Bの二教室に分かれ、A教室は第三土曜日午後一時から五時まで講師に勝山村在住の渡辺澄先生に、B教室は第三木曜日同時刻に小野在住の小俣次郎先生に、それぞれの力量に応じた指導を受けています。

まず、構図のとり方、質感、実在感、主役脇役の設定、色調とか空間など基礎的学習も、三時にはお茶を飲みながら和気あいあいとした雰囲気のも忘れられるほどのです。室内学習が主ですが、年に二、三回朝からお弁当を持参で屋外制作に出かけます。

都留周辺から近郊の美術館見学やスケッチなど小旅行の楽しさは親睦も深めてひとしおです。



静物画制作の様子

平成八年には、遠くフランスのパリまで、増田画伯の足跡を訪ねての観光と取材旅行は思い出深いものになりました。歴史的建造物や中世のお城、セーヌ河畔などまさに名画の世界、パリの本質的な美、文化や自然すべてに感動しました。その後「パリ風景画展」をふるさと会館にて開催、市内外の大勢の方達に観賞していただきました。

平成四年、会員の学習成果の発表として「第一回つる美術展」を富士女性センターのロビーにて開催、以後中央公民館小ホールにて定期展を開催し、今年は第八回目を数えました。新しい仲間との出会いもあり、また、他美術団体との交流も多くなり作品も多様化してきました。

平成十一年、初のグループ「五人展」を試みました。家族総出の搬入搬出などの手伝い、親類知人の励ましの言葉など、家族の思いやりが暖かく身にしみるグループ展でした。これからの年代順に五人展を発表する予定です。

誰でも絵を描いている間は無心になります。完成したときの充実感は格別です。油彩画は初心者向きで奥行きのある素材です。気軽に油絵を始めてみませんか。

問合せ 佐藤 弘子 ☎(43) 4679

地域文化の担い手『俳句の会 不二吟社』

小形山といえば、広い水田の広がる農村風景と郷土資料館を連想しますが、資料館はこの外有な名になり、これも明治時代の先人達が教育というものに情熱を注ぎ、建てたものにほかなりません。

そうしたこと地域性が俳句とも通じているのだらうと思います。拙宅にある明治二十二年発行の「聯句集」には、七百余句が掲載されており、また、大正の初めにも十名ほどで句会が年数回開催された記録も残されているなど、当地がいかに俳句が盛んであったかがわかります。こうした時代を経ながら、今日まで俳句のかがり火は、小形山、田野倉に灯され続けてきました。不二吟社という名もいつごろ付けられたかは、はっきりしませんが、昭和初期であることは間違いなく、不二吟社句集(昭和八年)として残っています。



伝統のある「俳句の会不二吟社」の皆さん

今、不二吟社会員は十三名、都留俳句連盟に所属していますが、こうした先輩たちの意志を強く受け止め、平成八年には小山田越中守信有の建立とされる十王堂(富春寺管理)に、俳句の掲額をし、また、田野倉駅待合室には、富士急行のご理解、ご協力をいただき、三十有余年の長きにわたり会員の俳句の発表の場として、当番制でかけかえ

続けています。昨今は、高川山、九鬼山に登山される方の乗降も多く、電車を待つひと時を楽しんでいることを見聞きし、このことだけでも私達は、地域の文化の一端を担っていると自負しています。

人生八十年時代、ペンとメモ帳さえあれば、だれでも、どこでもできる俳句をよきパートナーとして、これからも活動を続け頑張っていきたいと思っています。つい最近、若駒のごとくピチピチとした若い二人の加入もあって、はりきっているところです。

これからも一人でも多くの方の加入を心待ちにしています。

問合せ 不二吟社代表

平井 芙蓉 ☎(43) 8288